

**「新しい東北」官民連携推進協議会**  
**令和7年度 宮城県意見交換会（第1回）議事概要**

令和7年6月5日  
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】 令和7年6月5日（木）15:00～17:00

【場 所】 宮城復興局仙台支所

【出席者】 （敬称略）

＜副代表団体＞（順不同）

株式会社七十七銀行／宮城県／国立大学法人東北大学／一般社団法人みやぎ連携復興センター

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 宮城復興局

＜事務局＞

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン/株式会社 makes

【議事概要】

1 開会

復興庁復興知見班から、参事官の出席ができないこと、第2期復興・創生期間の最終年であること、新しい東北関連事業の取組総括の年であることを含めた挨拶があった。

2 昨年度の振り返り

昨年度の取組を3県でまとめている動画の視聴を中心に、振り返りを行った。宮城県では、宮城学院女子大学と東北大学の学生がガイド役となり、外国人に震災復興の歴史を学んでもらう取組を実施した。この活動は震災の風化を防ぐとともに国内外広く伝え、訪問してもらうことを目的としており、個人旅行のコースの設定、その評価と検証を行った。また、多賀城高校の生徒が招待状を作成し、訪問の機会を促す取組も行った。

3 各団体の活動紹介

復興庁と宮城県から、取組紹介資料（資料1～資料3-5）などを基に活動紹介があった。宮城県からは、①本県で行われた愛知県愛西市の中学校修学旅行での災害学習冊子の紹介、②石巻市の津波伝承館において語り部による講話を開催している活動、③復興に向けた歩みの中、最前線で活躍される方々から講話を聞き、参加者と新たな学び、気付きを共有する活動の紹介があった。

4 令和7年度の取組方針、取組内容等について

・復興庁から、東日本大震災からの復興事業は、令和8年度以降は予算が縮小される見込みであることの説明があった。事務局から取組内容の説明があった。内容として、①岩手県は能登、宮城県は東南海地域の若者を連れていき地元の方との交流をはかる実践の場を作る。②能登空港周辺での3県合同セミナーを開催することとしたい。第1部は官民連携の知見を未来へと題し、3県での取組を発表し、動画をお披露目する。さらに、復興の知見を整理し、アーカイブ化し全国での共有・活用方法を紹介。実践の場で活動した高校生・大学生からの発表も行い、次世代へつなぐ取組として展開する。第2部はあの時の私に伝えたいこととし3県で実施したイベントの映像をまとめ、震災後の歩みや未来へのメッセージを収録。これを映像との資料として編集し、地域の人々の声を次世代に伝承するものとしてほしい。

宮城での具体的取組としては、語り継ぐ声、未来へ残す足跡 ― Google Map × 語り部 × 観光プロジェクトと題し、スポットごとに語り部が語る短編動画を作成し、Google Map の動画投稿機能を活用し、マップ上投稿、語り部のアーカイブ化を図りたい。海外の方にも見ていただきたい部分もあるので字幕もいれたい。

取組参加者は高校生と大学生を予定したい。

#### <主な意見交換>

- ・ GoogleMap に記録をしていくことはいいことだと思うが、GoogleMap に動画を載せてもバズることはないと思う。せっかく力を入れて作成したものであるため、同じ動画を Youtube にあげてコメント欄にリンクや相互リンクをはると、コメントでも盛り上がりがあるかもしれない。
  - ・ ボランティア解説員の年齢層が対象者よりも若いことがあり、対象者の選定が難しい。
  - ・ 過去の取組では、20 代や 30 代の体験をアーカイブ化することがテーマとして掲げられており、震災の経験を再度聞くことが次の災害や防災の取組に繋がる。
  - ・ 語り部の枠を取り除くことに賛同する意見があり、被災地の企業や自治体から震災を経験した職員の意見を聞くことがより確実である。
  - ・ 発信力のある有名人を対象にすることは難しく、年齢層を絞ることでターゲットの紹介が容易になる。
  - ・ 動画コンテンツの制作においては、説得力のあるストーリーを持った方を探すことが重要であり、松島の観光スポットを活用した動画制作がよいのではないかと。
  - ・ 各副代表団体にインタビュー先となる方のご推薦をお願いしてはどうか。
- などが話し合われた。

#### 5 閉会

資料の公表可否や議事録の確認は 2 週間程度をめどに事務局から連絡させていただく。

以上をもって、第 1 回意見交換会を終了する。